

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アジア研究 I	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	1 年	原田優也研究室 (5号館5633号室) mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義は、地域研究の視点から、東南アジア国およびタイ王国の歴史を機軸としながら、現在の政治、社会文化、経済、ビジネスについて幅広く知り、国際理解のための視野を広めることを目的とします。	講義形式は、つぎのとおりです。1) タイの地域研究について、テーマ別概要・既存研究の成果を、資料、映像などをおりませながら講義する。2) 講義内容をもとに、関心のあるテーマについて文献調査の成果を報告する。3) 授業計画は学習状況によって変更することがある。
到達目標	東南アジア文化およびタイ王国の社会、文化などについて理解する。	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>第01回 オリエンテーションと評価方法 (アジア研究課題の選択、参考文献の確認)</p> <p>第02回 アジア研究背景 (東アジア、東南アジアなどの情報収集)</p> <p>第03回 東南アジアの歴史的特性1 (アジア歴史、ASEANを調べる)</p> <p>第04回 日本と東南アジアの歴史的特性2 (東南アジアの歴史を調べる)</p> <p>第05回 映画で見るタイ (タイ王国を調べる)</p> <p>第06回 映画で見るマレーシア (マレーシアを調べる)</p> <p>第07回 【理解度のテスト】 (関係資料などを復習)</p> <p>第08回 映画で見るインドネシア (インドネシアを調べる)</p> <p>第09回 映画で見るビルマ (ビルマを調べる)</p> <p>第10回 映画で見るラウス (ラウスを調べる)</p> <p>第11回 映画で見るビルマ (ビルマを調べる)</p> <p>第12回 映画で見るシンガポール (シンガポールを調べる)</p> <p>第13回 映画で見るベトナム (ベトナムを調べる)</p> <p>第14回 アジア研究の課題の確認 (レポート課題を書く)</p> <p>第15回 レポートの提出 (レポートの内容を点検)</p> <p>第16回 【期末試験】 (資料を復習)</p> <p>*新型コロナウイルス感染症の感染防止などのため、授業計画を変更することがある。</p>
	テキスト・参考文献・資料など
	講義の中で、適切なテキストを指示する。必要に応じてコピー資料を配布する。
学びの手立て	<p>●第1回目の講義は必ず参加してください。第1回目の講義を欠席した場合、履修登録は一切認められません。</p> <p>●新聞、テレビ、インターネットなどで流される東南アジア諸国およびタイ王国に関する情報を収集する。</p>
	評価
理解度テスト (20%)、期末試験 (20%)、レポート (40%)、平常点 (20%)	

学びの継続	次のステージ・関連科目 アジア研究II、その他国際理解科目群
-------	-----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アジア研究Ⅱ	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	1年	研究室: 5号館 5 6 3 3号室 mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義は、地域研究の視点から、東南アジアおよびタイ王国の歴史を機軸としながら、現在の政治、社会文化、経済、ビジネスなどについて幅広く知り、国際理解のための視野を広めることを目的とします。	メッセージ 講義形式は、つぎのとおりです。1) タイの地域研究について、テーマ別概要・既存研究の成果を、資料、映像などをおりませながら講義する。2) 講義内容をもとに、関心のあるテーマについて文献調査の成果を報告する。3) タイ語の日常会話の学習をとおして、生きたタイの文化にふれる。4) 学習状況や新型コロナ感染拡大防止などにより、授業計画を変更することがある。
	到達目標 東南アジア文化およびタイ王国の社会と文化などについて理解する。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>第01回: オリエンテーション 第02回: 日・タイの外交関係 (タイの歴史を調べる) 第03回: タイと日本文化 (タイの文化を調べる) 第04回: タイと沖縄文化 (タイと琉球王朝との関係を調べる) 第05回: タイの政治・経済 (タイ語の日常会話 1 を学習する) 第06回: タイの宗教 (タイ語の日常会話 1 を学習する) 第07回: タイの社会 (タイ語の日常会話 2 を学習する) 第08回: 理解度のテスト 第09回: タイの教育制度 (タイ語の日常会話 3 を学習する) 第10回: タイのLGBT (タイ語の日常会話 3 を学習する) 第11回: タイの観光ビジネス (タイ語の日常会話 4 を学習する) 第12回: タイの医療観光 (タイ語の日常会話 4 を学習する) 第13回: タイの映画産業 (タイ語の日常会話 5 を学習する) 第14回: タイの小売業 (タイ語の日常会話 5 を学習する) 第15回: レポートの提出 (レポートの作成・点検) 第16回: 期末試験</p> <p>【注意事項】 *第5回～14回: タイ語の日常会話を学習する</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>講義の中で、適切なテキストを指示する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ●第1回目の講義は必ず参加してください。第1回目の講義を欠席した場合、履修登録は一切認められません。 ●新聞、テレビ、インターネットなどで流される東南アジア諸国およびタイ王国に関する情報を収集する。
	<p>評価</p> <p>課題 (30%)、テスト (20%)、レポート (20%)、期末試験 (20%)、平常点 (10%)</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>その他国際理解科目群</p>
-------	--------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アメリカ研究	後期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	佐藤 学	1年	sato@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この科目は、アメリカ合衆国を、多面的・多層的に見ていくための基礎を学び取ることを目的とします。良く知っているはずの、国でしょうが、あなたは、どれだけ「本当の」アメリカ合衆国を知っていますか？担当教員は、米国政治を専攻する政治学研究者ですが、この科目では、社会・文化も含めた幅広い題材を使って、アメリカ合衆国を理解するための視座を提供するつもりです。	メッセージ 知っているようで知らないアメリカ合衆国のホントの姿を知ろう
	到達目標 単純な先入観を超えたアメリカ観を得るための基礎を学ぶ。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	歴史の概要と国の形「アメリカ合衆国の光と影」	毎回、指定の資料を読む
	2	政治の姿：大統領と連邦議会、連邦政府と州政府、民主党と共和党	高校教科書該当箇所を読む
	3	政治の姿：アメリカ政治の今	指定資料を読む
	4	アメリカ経済はなぜ「強い」のか：経済と産業の姿・中国との競争	米国経済の記事を読む
	5	アメリカ経済はなぜ「強い」のか：政府の役割、大学の役割、優位は揺らいでいるのか	指定資料を読む
	6	20世紀からのアメリカ政治経済史	指定資料を読む
	7	アメリカで暮らす：教育 高校まで	指定資料を読む
	8	アメリカで暮らす：教育 大学から	指定資料を読む
9	アメリカで暮らす：仕事、居住	指定資料を読む	
10	アメリカで暮らす：食生活、医療	指定資料を読む	
11	公民権運動：アメリカ合衆国の栄光	指定資料を読む	
12	「軍の国」「銃の国」	指定資料を読む	
13	アメリカ合衆国と「世界」：安全保障・外交	指定資料を読む	
14	アメリカ合衆国と「世界」（2）：経済・貿易	レポート主題を決める	
15	総括：「不思議な国」アメリカ合衆国	指定資料を読む	
16			
	テキスト・参考文献・資料など 使用しません。授業レジュメと資料を使用します。 参考文献は、必要に応じて紹介します。		
	学びの手立て 新聞、雑誌で、アメリカ関連の記事を読むこと。		
	評価 期末レポートを課します。出題については、事前に説明します。 評価基準は、期末レポート90% 授業への参加（発言、質問、等）10%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 日常生活、勉学の中で、アメリカに関する事柄をより明瞭に理解できる基礎知識を身に付ける。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	海外語学・文化セミナー I	その他	その他	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	国際理解科目群担当教員等	全学年	グローバル教育支援センター窓口等 (ircchr@okiu.ac.jp)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「海外語学・文化セミナー」は、本学の学生が海外での「語学学習&文化体験プログラム」へ参加することにより、生きた外国語に触れ、国際的視野を広げる機会を得られるように設けられた科目です。夏期・春期休業期間を利用して、本学の国外協定校が提供する各種研修に参加し、自らの語学能力やコミュニケーション能力を向上させ、異文化理解（多文化理解）を深めることを目標とします。</p>	<p>多文化に興味を持ち、理解しようとすることはグローバル化した現代社会で活躍するための基本です。国外協定校での実体験を通し得られる新たな発見や理解がグローバルな視野を築く基礎になり、国際感覚を育むこととなります。</p>
到達目標	<p>「国外協定校」のアンバサダーになれるように地理・歴史・文化を広く理解し、国外協定校が提供するカリキュラムの体験を通して各自が得た国際感覚・知的理解を言葉で表現できるレベルに至るため、次の目標の達成をめざします。</p> <p>(1) 事前研修への参加を通じて、派遣国・地域に関する基本的な語学・知識を修得することができる。 (2) 派遣された協定校における研修を通じて、語学の技能や文化体験での学びを深めることができる。 (3) 研修内容を自覚的に内省し、その内容について報告書にまとめることができる。 (4) 研修の成果を他者に発信するために、写真展・帰国報告会に積極的に取り組むことができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	事前研修（本学内）	オリエンテーション
	2	事前研修（本学内）	研修先について調べる
	3	事前研修（本学内）	研修先について調べる
	4	事前研修（本学内）	出発前の確認および手続き
	5	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	6	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	7	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	8	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	9	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	10	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	11	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	12	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	13	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	14	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	15	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	16	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	17	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	18	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	19	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	20	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	21	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	22	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	23	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	24	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	25	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	26	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	27	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	28	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	29	帰国報告会、写真展（本学内）	報告書、報告会、写真展の準備
	30	帰国報告会、写真展（本学内）	報告書、報告会、写真展の準備
31	帰国報告会、写真展（本学内）		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 事前研修でも紹介しますが、各自の知的好奇心に応じて図書館やメディアを利用して調べること。</p>
学びの実践	<p>学びの手立て 履修を考えるに当たり、以下のことを念頭に置いてください。（事前研修・事後報告があります）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的地（国外協定校）の「鼻高さん」になれるように地理、歴史、文化を事前に調べる。 ・協定校が提供する語学・文化セミナーのクラスを実体験して「鼻高さん知識」の確認、修正、追加を行う。 ・帰国後、先輩、後輩や友人に異文化体験を紹介し、自分が感じた事、学んだ事を言語（発表と報告書）で表現する。 <p>※事前研修では受け身ではなく積極的に調べ、現地では日記や写真などの記録を取る。帰国後は、報告会と報告書の提出があります。 （報告書はフォーマットが用意されています。事前研修時に配布します）</p>
	<p>評価 到達目標（１）の評価：事前研修への参加度（20％）、到達目標（２）の評価：研修先での成績（40％）、到達目標（３）の評価：帰国報告書の提出（25％）、到達目標（４）の評価：写真展・帰国報告会の取組（15％）の合計得点で評価され、「共通科目・国際理解科目群」における「海外語学・文化セミナー」として「4単位」が認定されます。「海外語学・文化セミナー」は「I」～「V」まで設定されていますが、単位認定は原則として数字の小さい科目から順次、認定されます。</p>
学びの継続	<p>次のステージ・関連科目 国際感覚を磨くためには「海外語学・文化セミナー I～V」だけでなく関連する語学科目、外国語研究などの事前、継続履修を強く勧めます。また、沖縄や日本との関係を更に理解するためにも共通科目だけでなく各学部学科が提供している科目の履修（自由選択科目として）が望ましいです。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	海外語学・文化セミナーⅡ	その他	その他	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	国際理解科目群担当教員等	全学年	グローバル教育支援センター窓口等 (ircchr@okiu.ac.jp)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「海外語学・文化セミナー」は、本学の学生が海外での「語学学習&文化体験プログラム」へ参加することにより、生きた外国語に触れ、国際的視野を広げる機会を得られるように設けられた科目です。夏期・春期休業期間を利用して、本学の国外協定校が提供する各種研修に参加し、自らの語学能力やコミュニケーション能力を向上させ、異文化理解（多文化理解）を深めることを目標とします。</p>	<p>多文化に興味を持ち、理解しようとすることはグローバル化した現代社会で活躍するための基本です。国外協定校での実体験を通し得られる新たな発見や理解がグローバルな視野を築く基礎になり、国際感覚を育むこととなります。</p>
到達目標	<p>「国外協定校」のアンバサダーになれるように地理・歴史・文化を広く理解し、国外協定校が提供するカリキュラムの体験を通して各自が得た国際感覚・知的理解を言葉で表現できるレベルに至るため、次の目標の達成をめざします。</p> <p>(1) 事前研修への参加を通じて、派遣国・地域に関する基本的な語学・知識を修得することができる。</p> <p>(2) 派遣された協定校における研修を通じて、語学の技能や文化体験での学びを深めることができる。</p> <p>(3) 研修内容を自覚的に内省し、その内容について報告書にまとめることができる。</p> <p>(4) 研修の成果を他者に発信するために、写真展・帰国報告会に積極的に取り組むことができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	事前研修（本学内）	オリエンテーション
	2	事前研修（本学内）	研修先について調べる
	3	事前研修（本学内）	研修先について調べる
	4	事前研修（本学内）	出発前の確認および手続き
	5	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	6	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	7	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	8	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	9	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	10	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	11	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	12	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	13	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	14	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	15	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	16	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	17	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	18	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	19	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	20	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	21	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	22	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	23	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	24	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	25	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	26	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	27	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	28	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	29	帰国報告会、写真展（本学内）	報告書、報告会、写真展の準備
	30	帰国報告会、写真展（本学内）	報告書、報告会、写真展の準備
31	帰国報告会、写真展（本学内）		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 事前研修でも紹介しますが、各自の知的好奇心に応じて図書館やメディアを利用して調べること。</p>
学びの実践	<p>学びの手立て 履修を考えるに当たり、以下のことを念頭に置いてください。（事前研修・事後報告があります）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的地（国外協定校）の「鼻高さん」になれるように地理、歴史、文化を事前に調べる。 ・協定校が提供する語学・文化セミナーのクラスを実体験して「鼻高さん知識」の確認、修正、追加を行う。 ・帰国後、先輩、後輩や友人に異文化体験を紹介し、自分が感じた事、学んだ事を言語（発表と報告書）で表現する。 <p>※事前研修では受け身ではなく積極的に調べ、現地では日記や写真などの記録を取る。帰国後は、報告会と報告書の提出があります。 （報告書はフォーマットが用意されています。事前研修時に配布します）</p>
	<p>評価 到達目標（１）の評価：事前研修への参加度（20％）、到達目標（２）の評価：研修先での成績（40％）、到達目標（３）の評価：帰国報告書の提出（25％）、到達目標（４）の評価：写真展・帰国報告会の取組（15％）の合計得点で評価され、「共通科目・国際理解科目群」における「海外語学・文化セミナー」として「4単位」が認定されます。「海外語学・文化セミナー」は「I」～「V」まで設定されていますが、単位認定は原則として数字の小さい科目から順次、認定されます。</p>
学びの継続	<p>次のステージ・関連科目 国際感覚を磨くためには「海外語学・文化セミナーI～V」だけでなく関連する語学科目、外国語研究などの事前、継続履修を強く勧めます。また、沖縄や日本との関係を更に理解するためにも共通科目だけでなく各学部学科が提供している科目の履修（自由選択科目として）が望ましいです。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	海外語学・文化セミナーⅢ	その他	その他	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	国際理解科目群担当教員等	全学年	グローバル教育支援センター窓口等 (ircchr@okiu.ac.jp)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「海外語学・文化セミナー」は、本学の学生が海外での「語学学習&文化体験プログラム」へ参加することにより、生きた外国語に触れ、国際的視野を広げる機会を得られるように設けられた科目です。夏期・春期休業期間を利用して、本学の国外協定校が提供する各種研修に参加し、自らの語学能力やコミュニケーション能力を向上させ、異文化理解（多文化理解）を深めることを目標とします。</p>	<p>多文化に興味を持ち、理解しようとすることはグローバル化した現代社会で活躍するための基本です。国外協定校での実体験を通し得られる新たな発見や理解がグローバルな視野を築く基礎になり、国際感覚を育むこととなります。</p>
到達目標	<p>「国外協定校」のアンバサダーになれるように地理・歴史・文化を広く理解し、国外協定校が提供するカリキュラムの体験を通して各自が得た国際感覚・知的理解を言葉で表現できるレベルに至るため、次の目標の達成をめざします。</p> <p>(1) 事前研修への参加を通じて、派遣国・地域に関する基本的な語学・知識を修得することができる。 (2) 派遣された協定校における研修を通じて、語学の技能や文化体験での学びを深めることができる。 (3) 研修内容を自覚的に内省し、その内容について報告書にまとめることができる。 (4) 研修の成果を他者に発信するために、写真展・帰国報告会に積極的に取り組むことができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	事前研修（本学内）	オリエンテーション
	2	事前研修（本学内）	研修先について調べる
	3	事前研修（本学内）	研修先について調べる
	4	事前研修（本学内）	出発前の確認および手続き
	5	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	6	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	7	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	8	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	9	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	10	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	11	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	12	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	13	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	14	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	15	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	16	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	17	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	18	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	19	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	20	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	21	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	22	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	23	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	24	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	25	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	26	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	27	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	28	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	29	帰国報告会、写真展（本学内）	報告書、報告会、写真展の準備
	30	帰国報告会、写真展（本学内）	報告書、報告会、写真展の準備
31	帰国報告会、写真展（本学内）		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 事前研修でも紹介しますが、各自の知的好奇心に応じて図書館やメディアを利用して調べること。</p>
学びの実践	<p>学びの手立て 履修を考えるに当たり、以下のことを念頭に置いてください。（事前研修・事後報告があります）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的地（国外協定校）の「鼻高さん」になれるように地理、歴史、文化を事前に調べる。 ・協定校が提供する語学・文化セミナーのクラスを実体験して「鼻高さん知識」の確認、修正、追加を行う。 ・帰国後、先輩、後輩や友人に異文化体験を紹介し、自分が感じた事、学んだ事を言語（発表と報告書）で表現する。 <p>※事前研修では受け身ではなく積極的に調べ、現地では日記や写真などの記録を取る。帰国後は、報告会と報告書の提出があります。 （報告書はフォーマットが用意されています。事前研修時に配布します）</p>
	<p>評価 到達目標（1）の評価：事前研修への参加度（20%）、到達目標（2）の評価：研修先での成績（40%）、到達目標（3）の評価：帰国報告書の提出（25%）、到達目標（4）の評価：写真展・帰国報告会の取組（15%）の合計得点で評価され、「共通科目・国際理解科目群」における「海外語学・文化セミナー」として「4単位」が認定されます。「海外語学・文化セミナー」は「I」～「V」まで設定されていますが、単位認定は原則として数字の小さい科目から順次、認定されます。</p>
学びの継続	<p>次のステージ・関連科目 国際感覚を磨くためには「海外語学・文化セミナー I～V」だけでなく関連する語学科目、外国語研究などの事前、継続履修を強く勧めます。また、沖縄や日本との関係を更に理解するためにも共通科目だけでなく各学部学科が提供している科目の履修（自由選択科目として）が望ましいです。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	海外語学・文化セミナーⅣ	その他	その他	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	国際理解科目群担当教員等	全学年	グローバル教育支援センター窓口等 (ircchr@okiu.ac.jp)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「海外語学・文化セミナー」は、本学の学生が海外での「語学学習&文化体験プログラム」へ参加することにより、生きた外国語に触れ、国際的視野を広げる機会を得られるように設けられた科目です。夏期・春期休業期間を利用して、本学の国外協定校が提供する各種研修に参加し、自らの語学能力やコミュニケーション能力を向上させ、異文化理解（多文化理解）を深めることを目標とします。</p>	<p>多文化に興味を持ち、理解しようとすることはグローバル化した現代社会で活躍するための基本です。国外協定校での実体験を通し得られる新たな発見や理解がグローバルな視野を築く基礎になり、国際感覚を育むこととなります。</p>
到達目標	<p>「国外協定校」のアンバサダーになれるように地理・歴史・文化を広く理解し、国外協定校が提供するカリキュラムの体験を通して各自が得た国際感覚・知的理解を言葉で表現できるレベルに至るため、次の目標の達成をめざします。</p> <p>(1) 事前研修への参加を通じて、派遣国・地域に関する基本的な語学・知識を修得することができる。 (2) 派遣された協定校における研修を通じて、語学の技能や文化体験での学びを深めることができる。 (3) 研修内容を自覚的に内省し、その内容について報告書にまとめることができる。 (4) 研修の成果を他者に発信するために、写真展・帰国報告会に積極的に取り組むことができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	事前研修（本学内）	オリエンテーション
	2	事前研修（本学内）	研修先について調べる
	3	事前研修（本学内）	研修先について調べる
	4	事前研修（本学内）	出発前の確認および手続き
	5	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	6	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	7	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	8	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	9	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	10	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	11	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	12	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	13	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	14	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	15	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	16	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	17	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	18	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	19	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	20	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	21	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	22	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	23	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	24	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	25	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	26	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	27	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	28	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	29	帰国報告会、写真展（本学内）	報告書、報告会、写真展の準備
	30	帰国報告会、写真展（本学内）	報告書、報告会、写真展の準備
31	帰国報告会、写真展（本学内）		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 事前研修でも紹介しますが、各自の知的好奇心に応じて図書館やメディアを利用して調べること。</p>
学びの実践	<p>学びの手立て 履修を考えるに当たり、以下のことを念頭に置いてください。（事前研修・事後報告があります）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的地（国外協定校）の「鼻高さん」になれるように地理、歴史、文化を事前に調べる。 ・協定校が提供する語学・文化セミナーのクラスを実体験して「鼻高さん知識」の確認、修正、追加を行う。 ・帰国後、先輩、後輩や友人に異文化体験を紹介し、自分が感じた事、学んだ事を言語（発表と報告書）で表現する。 <p>※事前研修では受け身ではなく積極的に調べ、現地では日記や写真などの記録を取る。帰国後は、報告会と報告書の提出があります。 （報告書はフォーマットが用意されています。事前研修時に配布します）</p>
	<p>評価 到達目標（１）の評価：事前研修への参加度（20％）、到達目標（２）の評価：研修先での成績（40％）、到達目標（３）の評価：帰国報告書の提出（25％）、到達目標（４）の評価：写真展・帰国報告会の取組（15％）の合計得点で評価され、「共通科目・国際理解科目群」における「海外語学・文化セミナー」として「4単位」が認定されます。「海外語学・文化セミナー」は「I」～「V」まで設定されていますが、単位認定は原則として数字の小さい科目から順次、認定されます。</p>
学びの継続	<p>次のステージ・関連科目 国際感覚を磨くためには「海外語学・文化セミナーI～V」だけでなく関連する語学科目、外国語研究などの事前、継続履修を強く勧めます。また、沖縄や日本との関係を更に理解するためにも共通科目だけでなく各学部学科が提供している科目の履修（自由選択科目として）が望ましいです。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	海外語学・文化セミナーV	その他	その他	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	国際理解科目群担当教員等	全学年	グローバル教育支援センター窓口等 (ircchr@okiu.ac.jp)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「海外語学・文化セミナー」は、本学の学生が海外での「語学学習&文化体験プログラム」へ参加することにより、生きた外国語に触れ、国際的視野を広げる機会を得られるように設けられた科目です。夏期・春期休業期間を利用して、本学の国外協定校が提供する各種研修に参加し、自らの語学能力やコミュニケーション能力を向上させ、異文化理解（多文化理解）を深めることを目標とします。</p>	<p>多文化に興味を持ち、理解しようとすることはグローバル化した現代社会で活躍するための基本です。国外協定校での実体験を通し得られる新たな発見や理解がグローバルな視野を築く基礎になり、国際感覚を育むこととなります。</p>
到達目標	<p>「国外協定校」のアンバサダーになれるように地理・歴史・文化を広く理解し、国外協定校が提供するカリキュラムの体験を通して各自が得た国際感覚・知的理解を言葉で表現できるレベルに至るため、次の目標の達成をめざします。</p> <p>(1) 事前研修への参加を通じて、派遣国・地域に関する基本的な語学・知識を修得することができる。</p> <p>(2) 派遣された協定校における研修を通じて、語学の技能や文化体験での学びを深めることができる。</p> <p>(3) 研修内容を自覚的に内省し、その内容について報告書にまとめることができる。</p> <p>(4) 研修の成果を他者に発信するために、写真展・帰国報告会に積極的に取り組むことができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	事前研修（本学内）	オリエンテーション
	2	事前研修（本学内）	研修先について調べる
	3	事前研修（本学内）	研修先について調べる
	4	事前研修（本学内）	出発前の確認および手続き
	5	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	6	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	7	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	8	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	9	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	10	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	11	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	12	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	13	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	14	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	15	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	16	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	17	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	18	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	19	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	20	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	21	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	22	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	23	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	24	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	25	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	26	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	27	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	28	国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校）	週末は文化体験クラスや自由活動
	29	帰国報告会、写真展（本学内）	報告書、報告会、写真展の準備
30	帰国報告会、写真展（本学内）	報告書、報告会、写真展の準備	
31	帰国報告会、写真展（本学内）		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 事前研修でも紹介しますが、各自の知的好奇心に応じて図書館やメディアを利用して調べること。</p>
学びの実践	<p>学びの手立て 履修を考えるに当たり、以下のことを念頭に置いてください。（事前研修・事後報告があります）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的地（国外協定校）の「鼻高さん」になれるように地理、歴史、文化を事前に調べる。 ・協定校が提供する語学・文化セミナーのクラスを実体験して「鼻高さん知識」の確認、修正、追加を行う。 ・帰国後、先輩、後輩や友人に異文化体験を紹介し、自分が感じた事、学んだ事を言語（発表と報告書）で表現する。 <p>※事前研修では受け身ではなく積極的に調べ、現地では日記や写真などの記録を取る。帰国後は、報告会と報告書の提出があります。 （報告書はフォーマットが用意されています。事前研修時に配布します）</p>
	<p>評価 到達目標（１）の評価：事前研修への参加度（20％）、到達目標（２）の評価：研修先での成績（40％）、到達目標（３）の評価：帰国報告書の提出（25％）、到達目標（４）の評価：写真展・帰国報告会の取組（15％）の合計得点で評価され、「共通科目・国際理解科目群」における「海外語学・文化セミナー」として「4単位」が認定されます。「海外語学・文化セミナー」は「I」～「V」まで設定されていますが、単位認定は原則として数字の小さい科目から順次、認定されます。</p>
学びの継続	<p>次のステージ・関連科目 国際感覚を磨くためには「海外語学・文化セミナー I～V」だけでなく関連する語学科目、外国語研究などの事前、継続履修を強く勧めます。また、沖縄や日本との関係を更に理解するためにも共通科目だけでなく各学部学科が提供している科目の履修（自由選択科目として）が望ましいです。</p>

※ポリシーとの関連性 国際的な経済取引について、理解を深める。また、グローバリゼーションの動向と背景を把握する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際経済	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鹿毛 理恵	1年	研究室：5528 メール：kage@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 経済の国際化を説明する国際経済学の理論を理解するための入門的科目である。経済のグローバル化に対応した制度的枠組みを理解する。国際経済学、開発経済学や世界経済を学ぶ前の基本的知識を学ぶ。	メッセージ 国際経済の枠組みや変遷、理論的枠組みについて、できるだけ初学者にも理解できるような講義を展開します。
	到達目標 経済の国際化を理解する。グローバリゼーションの動向と背景を理解する。国際的な制度的な枠組みの成り立ちとその機能などについて理解する。これらの学びを通じて、論理的に考察する力を獲得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	経済のグローバル化と国際取引	教科書：第1章
	2	国際貿易の基本構造：自由貿易	教科書：第1章
	3	国際貿易の基本構造：保護主義	教科書：第1章
	4	国際貿易システムの構造と課題	教科書：第2章
	5	国際収支と為替レート	教科書：第3章
	6	金融のグローバル化と国際通貨システム	教科書：第4章
	7	グローバリゼーションと経済開発	教科書：第5章
	8	グローバル経済化の発展途上諸国の課題	教科書：第6章
	9	グローバル化と国際労働移動	参考図書と資料
	10	ふりかえり：課題レポート提出メチ	教科書、調べ学習
	11	アメリカの対外経済と世界金融危機①	教科書：第8章
	12	アメリカの対外経済と世界金融危機②	教科書：第9章
	13	EUの地域統合とユーロ経済圏	教科書：第9章・第10章
	14	地域統合とアジア①	教科書：第11章
	15	地域統合とアジア②	教科書：第11章
	16	期末試験または課題レポート	ふりかえり
	テキスト・参考文献・資料など 教科書に沿って講義を展開します。 教科書：岩本武和ほか著『グローバル・エコノミー（第3版）』有斐閣アルマ 参考図書：大川良文『入門国際経済学』中央経済社 このほか、適宜、参考図書を紹介する。		
	学びの手立て 教科書をよく読んで、予習の段階ではわからないところを明らかにし、復習の段階では理解したかどうかの確認をしてください。		
	評価 平常点（リアクションペーパー含む）30%、中間試験/ふりかえり35%、期末試験/ふりかえり35%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 国際経済、国際政治、国際関係などの科目
-------	------------------------------------

※ポリシーとの関連性

国際的な経済取引について、理解を深める。また、グローバル化の動向と背景を把握する力を養成する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際経済	前期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鹿毛 理恵	1年	研究室：5528 メール：kage@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 経済の国際化を説明する国際経済学の理論を理解するための入門的科目である。経済のグローバル化に対応した制度的枠組みを理解する。国際経済学、開発経済学や世界経済を学ぶ前の基本的知識を学ぶ。	メッセージ 国際経済の枠組みや変遷、理論的枠組みについて、できるだけ初学者にも理解できるような講義を展開します。
	到達目標 経済の国際化を理解する。グローバル化の動向と背景を理解する。国際的な制度的な枠組みの成り立ちとその機能などについて理解する。これらの学びを通じて、論理的に考察する力を獲得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	経済のグローバル化と国際取引	教科書：第1章
	2	国際貿易の基本構造：自由貿易	教科書：第1章
	3	国際貿易の基本構造：保護主義	教科書：第1章
	4	国際貿易システムの構造と課題	教科書：第2章
	5	国際収支と為替レート	教科書：第3章
	6	金融のグローバル化と国際通貨システム	教科書：第4章
	7	グローバル化と経済開発	教科書：第5章
	8	グローバル経済化の発展途上諸国の課題	教科書：第6章
	9	グローバル化と国際労働移動	参考図書と資料
	10	ふりかえり：課題レポート提出メチ	教科書、調べ学習
	11	アメリカの対外経済と世界金融危機①	教科書：第8章
	12	アメリカの対外経済と世界金融危機②	教科書：第8章
	13	EUの地域統合とユーロ経済圏	教科書：第9章・第10章
	14	地域統合とアジア①	教科書：第11章
	15	地域統合とアジア②	教科書：第11章
	16	期末試験または課題レポート	ふりかえり
	テキスト・参考文献・資料など 教科書に沿って講義を展開します。 教科書：岩本武和ほか著『グローバル・エコノミー（第3版）』有斐閣アルマ 参考図書：大川良文『入門国際経済学』中央経済社 このほか、適宜、参考図書を紹介する。		
	学びの手立て 教科書をよく読んで、予習の段階ではわからないところを明らかにし、復習の段階では理解したかどうかの確認をしてください。		
	評価 平常点（リアクションペーパー含む）30%、中間試験/ふりかえり35%、期末試験/ふりかえり35%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 国際経済、国際政治、国際関係などの科目
-------	------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際政治	後期	金 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-星野 英一	1年	メール (hoshinoe@hs. u-ryukyu. ac. jp) で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>国際政治学の基礎を学び、それを沖縄や日本をめぐる国際関係に適用することで、自分がいま生きている世界の側面を理解できます。そうした世界理解を習慣化することは、専門的な学びを深めることにも、卒業後の生活や仕事にも、役に立ちます。</p>	<p>国際政治学の基礎をみんなと一緒に学びましょう。学んだことを沖縄や日本をめぐる国際関係に適用してみましょう。クラスメイトとの議論や映像資料の視聴を通して、自分の見方以外の世界理解があることを確認しましょう。それは皆さんの人生を豊かなものにするはずです。</p>
到達目標	<p>国際政治学の基礎的な概念や考え方を説明できるようになる。 国際政治学の基礎的な概念や考え方を沖縄や日本をめぐる国際関係に適用して、理解・説明できるようになる。 例えば、新聞記事の政治面や国際面を読んで沖縄や日本、世界で起きていることを、国際政治学の基礎的な概念や考え方を使って説明したり議論したりできるようになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	国際政治と国際関係	新聞ピックアップ
	2	国家の安全保障	新聞ピックアップ
	3	国家の安全保障と沖縄	新聞ピックアップ
	4	人間の安全保障	新聞ピックアップ
	5	人間の安全保障と沖縄	新聞ピックアップ
	6	人権はなぜ国際問題となったか	新聞ピックアップ
	7	沖縄は平和か？	新聞ピックアップ
	8	核と新しい戦争	新聞ピックアップ
	9	国連PKO, 人道的介入, 平和構築	新聞ピックアップ
	10	人権と民主主義	新聞ピックアップ
	11	グローバリゼーション	新聞ピックアップ
	12	ジェンダーをめぐる政治と経済	新聞ピックアップ
	13	開発援助	新聞ピックアップ
	14	地球環境問題	新聞ピックアップ
15	科学技術とエネルギー		
16			

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>教科書：星野英一他『沖縄平和論のアジェンダ』法律文化社、2018年、2500円。 参考文献：村田晃嗣他『国際政治学をつかむ』新版、有斐閣、2015年、2420円。</p>
----	--

学びの手立て	<p>原則として対面授業になります。三密を避けるため大教室で実施します。基本は講義形式ですが、グループ討論も交えて進めます。講義を受講するだけでなく、新聞を読み、テレビのニュースを見て、世界で何が起きているか、アンテナを張り巡らしましょう。そのために、毎回、宿題を出します。授業や宿題の内容について、クラスメイトと議論することも有益です。授業の資料や課題の提出は、沖国大ポータルを利用します。ただし、パンデミックの状況と大学の方針によっては、Zoomを利用した完全遠隔講義形式、あるいは、遠隔講義と対面講義のハイブリッド形式（指定された学生は対面でそれ以外は遠隔との形式、あるいは、学生の希望に応じて対面でも遠隔でも選択できる形式）にします。</p>
--------	---

評価	<p>(1) 国際政治学の基礎的な概念や考え方を沖縄や日本をめぐる国際関係に適用して、理解・説明できるようになったかを「新聞ピックアップ」で確認します (5%×14回=70%)。</p> <p>(2) 新聞記事の政治面や国際面を読んで沖縄や日本、世界で起きていることを、国際政治学の基礎的な概念や考え方を使って説明したり、グループで議論したりできるようになったかを「リフレクションペーパー」で確認します (2%×15回=30%)。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>この授業で学んだ国際政治の基礎の上で、さらに専門的な科目を履修してください。特に、平和について、また、沖縄について、より深く学んでください。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際平和学 I	前期	火 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-金城 さつき	1年	講義終了後に教室にて、オンラインの場合は直接話していただくか、チャットにご記入下さい。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「グローバル」または「グローバル化」という言葉は、今やそれを耳にしない日がないくらい身近な言葉となっていますが、その中でグローバルイシューと呼ばれる地球規模の課題が拡大し、国を超えて相互に関係・影響しています。幾つかの事例や課題を取り上げ、平和とは何か、どのような社会が望ましいのか共に考えます。	グローバルイシュー（地球規模の課題）と聞くとなんだか難しく、自分とは関係のないことのように感じるかもしれませんが、私たちの暮らしは世界とつながっています。世界で今何が起きているのか、その現状と背景に関心を持ち、考えてみたいという学生の受講を期待しています。
到達目標	① 地球規模の課題の原因や背景に関心を持ち、私たちとのつながりを考えられるようになる。 ② 同時に沖縄の現状を歴史的な事象から捉えることができるようになる。 ③ 関心を持ったテーマを自分自身で継続した学びにつなげることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンスと授業導入のためのアクティビティ①	シラバスを読んでおく
2	授業導入のためのアクティビティ② 問題解決に向けて	講義の復習、関連資料・文献を読む	
3	人の移動①世界の移民・難民の状況と課題	同上	
4	人の移動②日本の移民・難民	同上	
5	人の移動③日本の移民・難民・多文化共生	同上	
6	人の移動④沖縄の移民・難民	同上	
7	人の移動⑤沖縄の移民・難民	同上	
8	人の移動⑥沖縄の移民・難民	同上	
9	基地と軍隊①在沖米軍基地の役割	同上	
10	基地と軍隊②軍隊の実態と性質	同上	
11	基地と軍隊③兵士となる背景と抱える問題	同上	
12	平和と子ども①少年兵	同上	
13	平和と子ども②児童労働	同上	
14	平和と子ども③子どもの権利	同上	
15	授業全体のまとめ・振り返り	同上	
16	授業のまとめ（試験形式）	講義全体の復習	
	テキスト・参考文献・資料など		
	テキストは使用しません。 参考文献や資料は随時授業内で提示します。 授業は基本的には対面で実施しますが、場合によってはオンラインに切り替えることもあります。		
	学びの手立て		
	①履修の心構え 自分の考えを巡らせるほか、グループワーク等意見交換をする場を設けることも予定しているため、授業への積極的な参加を望みます。 学習環境を大切にするため、グループワーク以外の授業中の私語や携帯の使用は控えてください。 ②学びを深めるために 普段から新聞やニュースに関心を持ち、関連の話題に触れるよう、自身で積極的に情報収集してください。		
	評価		
	①授業理解(30%)・授業への参加態度・姿勢(30%)…授業への参加状況・グループワークへの貢献、毎回授業後にリアクションペーパーを記入してもらい、授業内容の理解度をみます。 ②試験(40%)…授業で扱ったテーマに関連する課題を示し、授業内容についての理解の深まり及び関心の広がりを見ます。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 授業内で取り上げたテーマを身近な問題と引きつけて考え、関心を持ったテーマを掘り下げていきましょう。「国際平和学Ⅱ」のほか、「国際理解教育科目群」の関連科目を履修しながら理解を深めていくことをお勧めします。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際平和学 I	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大城 尚子	1年	ppt987@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	現代世界では、人・物資・情報が以前よりも頻繁に国境を越えて行き交い、一国の出来事が他国の日常生活に影響を与える。受講生は、これらの諸現象を把握し、相互に関係しあう国際的、国内的要因を比較・分析し、明らかにできるようになる。具体的な事例は沖縄戦ならびに軍事基地問題とする。	前期では戦争と基地問題に焦点をあて「平和」とは何かを考えます。また、沖縄で国際平和学を学ぶ意義を実践的に考えていきます。
到達目標	目標① 平和学の歴史を把握することができる。	目標② 主要な平和学の理論を理解する。
	目標③ 国際平和学の各基礎理論を説明できる。	目標④ 基本の理論を用いて国際問題を分析できる。
学びの実践	目標⑤ 国家の外交政策と国内政策の概要を説明できる。	目標⑥ 安全保障問題と平和の争議を説明できる。
	目標⑦ インターネットや新聞等で平和問題に関わる事柄の情報収集をすることができる。	
	目標⑧ 時事問題に関して授業中発言することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクションー「平和」ならびに「平和学」とは何か	参考文献の確認
	2	平和学の形成と発展①	ヨハン・ガルトウングの構造的暴力
	3	平和学の形成と発展②	ヨハン・ガルトウングの構造的暴力
	4	沖縄で国際平和学を学ぶ①	講義内で提示
	5	沖縄で国際平和学を学ぶ②ー沖縄戦とは何か	講義内で提示
	6	沖縄で国際平和学を学ぶ③ー沖縄戦と援護法	沖縄戦と援護法
	7	中間レポート課題設定	復習
	8	政治利用される死者	講義内で提示
	9	被害者＝加害者の琉球・沖縄人	講義内で提示
	10	世界の米軍基地①ーチャゴス諸島	講義内で提示
	11	世界の米軍基地②ーハワイ	講義内で提示
	12	基地と環境問題ー在沖縄米軍基地	講義内で提示
	13	基地と人権ー在沖縄米軍基地	講義内で提示
	14	琉球・沖縄の記憶を継承することとは	講義内で提示
15	試験		
16	試験のふりかえり		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	テキストは使用しません。プリントを配布します。 参考文献：石原昌家・仲地博編『オキナワを平和学する』法律文化社、2005年、ヨハン・ガルトウング（高柳先男、塩屋保、酒井由美子訳）『構造的暴力と平和』中央大学出版部、1991年など

学びの実践	学びの手立て
	講義内でわからぬ事があれば積極的に質問すること。 中間レポートは添削のうえ返却する。期末試験は、講評、解説の時間を設ける。

学びの実践	評価
	本講義はGoogle Classで課題を出します。加えて積極的な講義への参加態度（発言や質問等）も成績に加味します。また、中間レポート（調査内容の報告）と期末試験を総合して判断、評価します。平常点（30%）、中間レポート（30%）、期末レポート（40%）。5回以上欠席した者は、期末試験を受けられません。講義時間開始30分以降の入室は遅刻とします。講義内では理解度確認のため、受講生へ意見や発言を促すことがある。レポートはWordファイルで作成し、Googleクラスルームから提出すること。

学びの継続	次のステージ・関連科目
	関連科目：沖縄の基地問題、国際関係論、平和学等

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際平和学Ⅱ	後期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-金城 さつき	1年	講義終了後に教室にて、オンラインの場合は直接話していただくか、チャットにご記入下さい。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「グローバル」または「グローバル化」という言葉は、今やそれを耳にしない日がないくらい身近な言葉となっていますが、その中でグローバルイシューと呼ばれる地球規模の課題が拡大しています。平和とは戦争がない状態だけを指すわけではありません。幾つかの課題を取り上げ、平和とは何か、どのような社会が望ましいのか共に考えます。	グローバルイシュー（地球規模の課題）と聞くとなんだか難しく、自分とは関係のないことのように感じるかもしれませんが、私たちの暮らしは世界とつながっています。世界で今何が起きているのか、その現状と背景に関心を持ち、考えてみたいという学生の受講を期待しています。
到達目標	① 地球規模の課題の原因や背景に関心を持ち、私たちとのつながりを考えられるようになる。 ② 貧困など人類共通の課題についての理解と関心を深められる。 ③ 関心を持ったテーマを自分自身で継続した学びにつなげることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンスと授業の導入のためのアクティビティ①	シラバスを読んでおく。
	2	授業導入のためのアクティビティ②	講義の復習、関連資料・文献を読む
	3	食料問題①	同上
	4	食料問題②	同上
	5	持続可能な生産と消費① スマホを通して考える紛争	同上
	6	持続可能な生産と消費② 紛争下における性暴力	同上
	7	水を通じて考える環境① 世界の水事情と私たちのつながり	同上
8	水を通じて考える環境② 水をめぐる暮らしの変化	同上	
9	水を通じて考える環境③ 水のこれからと私たちの暮らし	同上	
10	豊かさの開発①	同上	
11	ファッションを通して持続可能な社会を考える①	同上	
12	ファッションを通して持続可能な社会を考える②	同上	
13	持続可能な開発目標（SDGs）を考える①	同上	
14	持続可能な開発目標（SDGs）を考える②	同上	
15	授業全体のまとめ・ふりかえり	同上	
16	授業のまとめ（試験形式）	講義全体の復習	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	テキストは使用しません。 参考文献や資料は随時授業内で提示します。 授業は基本的には対面で行いますが、場合によってはオンラインに切り替えることがあります。		
	学びの手立て ①履修の心構え 自分の考えを巡らせるほか、グループワーク等意見交換をする場を設けることも予定しているため、授業への積極的な参加を望みます。 学習環境を大切にするため、話し合い以外の授業中の私語や携帯の使用は控えてください。 ②学びを深めるために 普段から新聞やニュースに関心を持ち、関連の話題に触れるよう、自身で積極的に情報収集してください。		
	評価 ①授業理解(30%)・授業への参加態度・姿勢(30%)…授業への参加状況・グループワークへの貢献、毎回授業後にリアクションペーパーを記入してもらい、授業内容の理解度をみます。 ②学期末試験(40)…授業で扱ったテーマに関連する課題を示し、授業内容についての理解の深まり及び関心の広がりを見ます。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 授業内で取り上げたテーマを身近な問題と引きつけて考え、関心を持ったテーマを掘り下げていきましょう。「国際理解教育科目群」の関連科目を履修しながら理解を深めていくことをお勧めします。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際平和学Ⅱ	後期	土2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-豊見山 和美	1年	(大学から提供されるE-mailアカウントを 利用します)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	現代世界ではさまざまな形で情報が氾濫している。国際的な平和や戦争の問題を考える時、錯綜する情報を分析し、偏ったあるいは誤った理解へ導かれることのないようリテラシーを養う必要がある。また、自分の属する社会の歴史や構造に対してしっかりした視座を持ったうえで、他者とコミュニケーションを図れるようになると、人生を豊かにする力が得られる。	平和の理念や戦争の現実を伝えるために、さまざまな記録や文書が作成され、創作を通して表現され、そのための施設が建設されてきました。これらの記録や文書、施設、創作物の内容、形式、背景等を読み解きながら、平和の意味を考えます。
到達目標	目標①身近な事象、身近な歴史を通して平和への視座を持てるようになる。 目標②情報に過度に流されない、自分なりの考えの軸を持てるようになる。 目標③沖縄の現代史に対して関心を持ち深堀りできるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション 平和を考える場所としての公文書館	講義内で紹介
	2	平和を考える場所としての資料館	講義内で紹介
	3	戦争と記録 米軍が撮影した沖縄戦	講義内で紹介
	4	戦争と表現 映画とプロパガンダ1	講義内で紹介
	5	戦争と表現 映画とプロパガンダ2	講義内で紹介
	6	占領期の記憶 沖縄聖火リレー	講義内で紹介
	7	占領期の記憶 毒ガス移送	講義内で紹介
	8	占領期の記憶 琉米親善	講義内で紹介
	9	占領期の記憶 コザ「暴動」	講義内で紹介
	10	沖縄の平和思想1	講義内で紹介
	11	沖縄の平和思想2	講義内で紹介
	12	差別と偏見 日常にひそむ「不和」	講義内で紹介
	13	東アジアの平和と沖縄1	講義内で紹介
	14	東アジアの平和と沖縄2	講義内で紹介
15	期末試験		
16	期末試験の振り返り		

テキスト・参考文献・資料など
 特定の教科書は使用しません。プリントやレジュメは指定の場所からダウンロードできるようにします。

学びの手立て

- ①新聞をよく読み、ボキャブラリーを広げるよう日頃から心がけること。特に国際関係、平和、戦争、人権、差別などのトピックに敏感になりましょう。
- ②平和や戦争をテーマにした映画や音楽、芸術等に関心をもちましょう。
- ③沖縄の戦争体験だけでなく、アジアの戦争体験も意識するようになりましょう。
- ④気軽に講義の時間に発言できるようになりましょう。

評価

- ①平常点30%：毎回の講義で提出してもらうリアクションペーパー(Google Classroom使用)や、講義での積極的な参加(発言や質問)を評価します。講義中に受講生に意見や発言を促すこともあります。
- ②期末試験70%。
- ③5回以上欠席すると期末試験を受けられないことがあります。
- ④講義開始15分経過後の入室は遅刻とし、平常点に影響することがあります。

次のステージ・関連科目

- ・沖縄とアジア、世界のつながりを意識して国際平和の問題を考え、海外の人と意見交換できるような歴史的・国際関係の知見を高める。

※ポリシーとの関連性 グローバル社会における自身の位置づけを明確にし、異文化の知識・理解を持ち合わせた人材育成を目指す。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際理解課題研究 I	通年	火 3	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上原 千登勢	3年	c. uehara@okiu.ac.jp 9号館502号室	

学びの準備	ねらい グローバル社会に必要なコミュニケーション力、異文化理解などを通して、自立した学習者・即戦力のある人材になることを目指す。また日本・沖縄の状況を客観的に分析・比較し、自らの意見や情報を発表・発信できるようになる。	メッセージ 【実務経験】留学を含め海外生活14年と外資・グローバル企業での英語講師経験を活かし、アクティブラーニング・クリティカルシンキングを取り入れ、国際・異文化理解を深める授業を行います。英語力は問いませんが、英語を積極的に学びたい学生、海外・異文化に興味がある、考えることが好き、そんな学生に是非受講して欲しいと思います。
	到達目標 最終的には1年で学んだことを活かし、英語で発表(Presentation)を行うことを目標とする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		時間外学習の内容
	回	テーマ	
	1	Orientation & Guidance オリエンテーション&ガイダンス【要出席!】	目標設定・学習プランを立てる
	2	Course Design and Setting Goals 「1年を通しての目標設定」	目標設定・学習プランを立てる
	3	Who am I? ① 「私って何・誰？」	課題 Self Reflection
	4	Who am I? ②	課題 Self Reflection
	5	Globalization ① 「国際化・グローバルって何？」	課題
	6	Globalization ②	課題
	7	What is fair? ① 「平等って何？」	課題
	8	What is fair? ②	課題
	9	Prejudice & Discrimination ① 「偏見と差別」	課題
	10	Prejudice & Discrimination ②	課題
	11	Asians Around the World ① 「世界のアジア人」	課題
	12	Asians Around the World ②	課題 発表準備
	13	Mini presentations ① 「ミニプレゼン」	課題 発表準備
	14	Mini presentations ②	夏休みの課題を決定
	15	Review/ Summer Vacation Field Work 「まとめ・夏休みの課題」	夏休み課題 発表準備
	16	Summer Vacation Field Work Reports/Presentations 「夏休みの課題の発表」	課題
	17	Fact or Opinion? ① 「事実OR見解・意見？」	課題
	18	Fact or Opinion? ②	課題
	19	Fact or Opinion? ③	課題
	20	Social Issues ① 「社会問題」	課題
	21	Social Issues ②	課題
	22	Social Issues ③	プレゼントピック決定
	23	Presentation Topic DUE	プレゼン概要決定
	24	Presentation Outline DUE	プレゼンスクリプトを準備
	25	Presentation Presentation ① English First Draft DUE	課題
	26	Presentation Preparation ②	プレゼンスクリプト添削
	27	Presentation Preparation ③ English Second Draft DUE	プレゼン準備
	28	Presentation Practice ①	プレゼン準備
	29	Presentation Practice ②	プレゼン準備
30	Final Presentation	プレゼン準備	
31	Final Presentation / Class Reflection 「振り返り」		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは特になが、必要に応じて授業で資料やプリントを配布する。自身で書籍・メディア・ネットなどを用いて情報収集し、授業で情報を共有すること。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>【重要】 受講希望者は必ず初日（オリエンテーション）に出席すること。出席できない場合は教員に事前に連絡すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業に出席することは基本である。全体の1/3以上欠席した時点で単位は認められない。30分以上の遅刻を欠席、また2回の遅刻は1回の欠席とみなす。 ・学習経過・理解度をチェックするので予習、復習・課題は自主的、かつ積極的に行うこと。 ・スタディグループを作り、授業以外でも定期的に学習する環境作りをすること。欠席した際、クラスメートより授業内容を教えてもらい、配布物を預かってもらうようにすること。
	<p>評価</p> <p>①授業態度、授業への参加・積極性・貢献度（25%）②課題：グループワーク（25%）③課題：個人（25%）④ Final Presentation（25%）を総合的に判断して評価する。</p> <p>【重要】 英検準2級、TOEIC400点～の英語力があることが望ましいが、積極的に学ぼうという姿勢があれば英語力は問わない。授業は英語と日本語で行われる。The class will be conducted in both English and Japanese. Foreign students studying at OKIU are WELCOME!</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>英語VI（英検準1級）、英語VII（TOEIC）、を受講し英語力向上を目指すことや、他の外国語も積極的に履修することで異文化やグローバル社会の理解を深めて欲しい。また、スピーチコンテストや語学合宿、更には興味のある学生は留学や海外インターンシップにもチャレンジすることでこれからの時代に備えグローバルに活躍できる人材になって欲しいと考える。</p>

※ポリシーとの関連性 異なる言語・文化に対して、多角的に考察・理解しながら調整する能力を持つ人材を育成する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際理解課題研究 I	通年	火 2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 ヒョンジョン	3年	授業終了後に受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義は、東アジアでも最も日本の隣国で、相互理解の面でも欠かせない韓国に焦点を当てる。日韓は政治・歴史の面から様々な課題を抱えているものの、近年の「韓流」「K-pop」といったサブ・カルチャー的要素による交流面は一躍買っている現状がある。講義では、韓国の歴史や社会、言語、文化などに触れながら、日本・沖縄と比較・考察することで、日韓の真の相互理解について考えていく。</p>	<p>皆さんはニュースなどを通して、大衆文化面または人的交流面では友好に見える日韓関係が、政治・歴史的な面では雰囲気が一気に冷めてしまう現状を感じたことはありませんか。大衆文化的な面だけにとらわれない、または歴史的な面だけにもとらわれない、日韓の真の相互理解のために必要な姿勢と能力について皆で考えていきましょう。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 文化を客観的にみつめて語る力を持つと同時に、自文化を再認識することができる。 取り上げるテーマについて深く考察し、韓国語を用いて発表したりまとめたりすることができる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス「講義の流れ、評価方法など」	今学期の計画設定
	2	東アジアにおける日本と韓国「概要と歴史」	授業内容の振り返り
	3	韓国の社会1「生活・経済」	グループ発表（1回目）準備
	4	韓国の社会2「教育制度と今日の教育事情」	グループ発表（1回目）準備
	5	韓国の社会3「IT社会と韓国語の変容」	グループ発表（1回目）準備
	6	グループ発表と討議	発表内容の振り返り
	7	韓国の文化1「行事をめぐる伝統文化」	グループ発表（2回目）準備
	8	韓国の文化2「衣・食・住」	グループ発表（2回目）準備
	9	韓国の文化3「伝統から現代へ」	グループ発表（2回目）準備
	10	グループ発表と討議	授業内容の振り返り
	11	日韓相互理解1「韓国における日本観」	グループ発表（3回目）準備
	12	日韓相互理解2「日本における韓国観」	グループ発表（3回目）準備
	13	日韓相互理解3「文化リテラシーの必要性」	グループ発表（3回目）準備
	14	グループ発表と討議	発表内容の振り返り
	15	前期のまとめ	前期の振り返り
	16	後期の流れとテーマ設定に関する討議	テーマ設定のための文献調査
	17	研究調査の方法と論文作成について	テーマ設定のための文献調査
	18	テーマ設定と自己計画シート作成	自己評価
	19	文献探索と発表・討議1	文献のまとめ
	20	文献探索と発表・討議2	文献のまとめ
	21	計画状況の確認1	文献のまとめ
	22	テーマに沿った調査報告1	調査準備と実行
	23	テーマに沿った調査報告2	調査準備と実行
	24	テーマに沿った調査報告3	調査準備と実行
	25	計画状況の確認2	論文作成
	26	調査結果の分析とまとめ1	論文作成
	27	調査結果の分析とまとめ2	論文作成
	28	研究結果の発表1	最終発表の準備
	29	研究結果の発表2	最終発表の準備
30	研究結果の発表3	発表の振り返り	
31	後期のまとめ・自己評価	今学期の振り返り	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストの指定は無し。テーマに合わせて随時プリントを配布する。 ・次は参考文献として薦める。その他、必要に応じて講義のなかで紹介する。 北尾謙治 ほか (2005) 『広げる知の世界—大学での学びのレッスン—』 ひつじ書房 小此木政夫 ほか (2012) 『日韓新時代と東アジア国際政治』 慶應義塾大学出版会 前田真彦 (2015) 『韓国語上級表現ノート』 明石書店
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・韓国語による討議や発表などを前提とするため、韓国語IVまで履修済みまたはそれ同等の韓国語力を持つ人が受講対象となる。 ・前期はグループ発表を通して協同のなかで自分の役割を果たすこと、後期は自己計画シートを作成しながら自分のテーマに沿った研究を積極的に遂行していくことを重視する。
	<p>評価</p> <p>講義内での発言・態度等の参加度 (30%)、グループまたは個人発表 (40%)、課題・論文作成 (30%) を合わせて評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・韓国語関連の検定試験(上級レベル)や、韓国への留学試験等に挑戦する。 ・自分のテーマが卒業論文と関連を持つ場合は、より考察を深めていってほしい。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際理解課題研究 I	通年	火 4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上江洲 律子	3年	沖国大ポータルGmailにて質問してください。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ヨーロッパ（主にフランス）を主題とする童話『星の王子さま』やアニメ映画『王と鳥』といった表象を通して、ヨーロッパの文化についての知識を得ることを目的とします。また、物語や映画が内包するヨーロッパ的なものを汲み取る力を身につけて、それらを受容する感受性や日本を中心とする視点だけに留まらない幅広い視点を獲得することを目指します。</p> <p>到達目標</p> <p>ヨーロッパを主題とする表象（小説、映画、芸術、建築、音楽、料理、ファッションなど）を取り上げて、そこに内包されているヨーロッパ的なものを汲み取り、日本との比較を通してそれに関する自分の考えをまとめて、その考えを自分の言葉で発表することができるようになることを目標とします。</p>	<p>まず、ヨーロッパに関するさまざまな表現に触れてみましょう。それが、新しい世界への窓となります。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	前期のガイダンス	課題の作成
	2	童話『星の王子さま』の分析と考察のガイダンス（1）	課題の作成
	3	童話『星の王子さま』の分析と考察のガイダンス（2）	課題の作成
	4	童話『星の王子さま』の分析と考察の準備（1）	課題の作成
	5	童話『星の王子さま』の分析と考察の準備（2）	課題の作成
	6	童話『星の王子さま』についての発表の準備（1）	課題の作成
	7	童話『星の王子さま』についての発表の準備（2）	課題の作成
	8	童話『星の王子さま』についての発表（1）	課題の作成
	9	童話『星の王子さま』についての発表（2）	課題の作成
	10	童話『星の王子さま』についての発表（3）	課題の作成
	11	童話『星の王子さま』についての発表（4）	課題の作成
	12	童話『星の王子さま』についての発表（5）	課題の作成
	13	童話『星の王子さま』についての発表（6）	課題の作成
	14	童話『星の王子さま』についての発表（7）	課題の作成
	15	童話『星の王子さま』についての発表（8）	課題の作成
	16	前期のまとめと後期の発表のガイダンス	課題の作成
	17	後期のガイダンス	課題の作成
	18	アニメ映画『王と鳥』の分析と考察のガイダンス（1）	課題の作成
	19	アニメ映画『王と鳥』の分析と考察のガイダンス（2）	課題の作成
	20	アニメ映画『王と鳥』の分析と考察のガイダンス（3）	課題の作成
	21	ヨーロッパについての発表の準備（1）	課題の作成
	22	ヨーロッパについての発表の準備（2）	課題の作成
	23	ヨーロッパについての発表（1）	課題の作成
	24	ヨーロッパについての発表（2）	課題の作成
	25	ヨーロッパについての発表（3）	課題の作成
	26	ヨーロッパについての発表（4）	課題の作成
	27	ヨーロッパについての発表（5）	課題の作成
	28	ヨーロッパについての発表（6）	課題の作成
	29	ヨーロッパについての発表（7）	課題の作成
30	ヨーロッパについての発表（8）	課題の作成	
31	後期のまとめ	復習	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>サン＝テグジュペリ『星の王子さま』の日本語訳本 ※『星の王子さま』については数多くの日本語訳本が出版されています。どの日本語訳本でも構いませんので、各自、入手して目を通しておいてください。 ※それ以外の資料については、授業内で必要に応じてプリントを配付します。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>フランスの小説家アンドレ・マルローは「われわれは比較を通してしか感じ取ることができない」と語っていますが、何かを理解する上で比較することは重要なことです。常に「比較する」ことを意識しながら作品に向き合ってください。</p>
	<p>評価</p> <p>主に授業での発表（80％）によって評価します。また、課題の提出（20％）も評価に加味します。 ※ただし、単位修得のためには授業の3分の2以上の出席を義務づけます。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>この科目に継続する科目として国際理解課題研究Ⅱがあります。また、ヨーロッパ文化を主題とするヨーロッパ研究Ⅰ（前期）とヨーロッパ研究Ⅱ（後期）があります。ヨーロッパについての知識を高めたい方は、その科目を受講して下さい。また、国際理解課題研究として、アジアおよび英語圏を主題としたゼミもあります。異文化について幅広く理解を深めたい方は、そのゼミを受講して下さい。</p>

※ポリシーとの関連性 グローバル社会における自身の位置づけを明確にし、異文化の知識・理解を持ち合わせた人材育成を目指す。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際理解課題研究Ⅱ	通年	火3	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上原 千登勢	3年	c. uehara@okiu.ac.jp 9号館502号室	

学びの準備	ねらい グローバル社会に必要なコミュニケーション力、異文化理解などを通して、自立した学習者・即戦力のある人材になることを目指す。また日本・沖縄の状況を客観的に分析・比較し、自らの意見や情報を発表・発信できるようになる。	メッセージ 【実務経験】留学を含め海外生活14年と外資・グローバル企業での英語講師経験を活かし、アクティブラーニング・クリティカルシンキングを取り入れ、国際・異文化理解を深める授業を行います。英語力は問いませんが、英語を積極的に学びたい学生、海外・異文化に興味がある、考えることが好き、そんな学生に是非受講して欲しいと思います。
	到達目標 最終的には1年で学んだことを活かし、英語で発表(Presentation)を行うことを目標とする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Orientation & Guidance オリエンテーション&ガイダンス【要出席!】	目標設定・学習プランを立てる
	2	Course Design and Setting Goals 「1年を通しての目標設定」	目標設定・学習プランを立てる
	3	Who am I? ① 「私って何・誰？」	課題 Self Reflection
	4	Who am I? ②	課題 Self Reflection
	5	Globalization ① 「国際化・グローバルって何？」	課題
	6	Globalization ②	課題
	7	What is fair? ① 「平等って何？」	課題
	8	What is fair? ②	課題
	9	Prejudice & Discrimination ① 「偏見と差別」	課題
	10	Prejudice & Discrimination ②	課題
	11	Asians Around the World ① 「世界のアジア人」	課題
	12	Asians Around the World ②	課題 発表準備
	13	Mini presentations ① 「ミニプレゼン」	課題 発表準備
	14	Mini presentations ②	夏休みの課題を決定
	15	Review/ Summer Vacation Field Work 「まとめ・夏休みの課題」	夏休み課題 発表準備
	16	Summer Vacation Field Work Reports/Presentations 「夏休みの課題の発表」	課題
	17	Fact or Opinion? ① 「事実OR見解・意見？」	課題
	18	Fact or Opinion? ②	課題
	19	Fact or Opinion? ③	課題
	20	Social Issues ① 「社会問題」	課題
	21	Social Issues ②	課題
	22	Social Issues ③	プレゼントピック決定
	23	Presentation Topic DUE	プレゼン概要決定
	24	Presentation Outline DUE	プレゼンスクリプトを準備
	25	Presentation Presentation ① English First Draft DUE	課題
	26	Presentation Preparation ②	プレゼンスクリプト添削
	27	Presentation Preparation ③ English Second Draft DUE	プレゼン準備
	28	Presentation Practice ①	プレゼン準備
	29	Presentation Practice ②	プレゼン準備
30	Final Presentation	プレゼン準備	
31	Final Presentation / Class Reflection 「振り返り」		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは特になが、必要に応じて授業で資料やプリントを配布する。自身で書籍・メディア・ネットなどを用いて情報収集し、授業で情報を共有すること。</p>
学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>【重要】 受講希望者は必ず初日（オリエンテーション）に出席すること。出席できない場合は教員に事前に連絡すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業に出席することは基本である。全体の1/3以上欠席した時点で単位は認められない。30分以上の遅刻を欠席、また2回の遅刻は1回の欠席とみなす。 ・学習経過・理解度をチェックするので予習・復習・課題は自主的、かつ積極的に行うこと。 ・スタディグループを作り、授業以外でも定期的に学習する環境作りをすること。欠席した際、クラスメートより授業内容を教えてもらい、配布物を預かってもらうようにすること。
	<p>評価</p> <p>①授業態度、授業への参加・積極性・貢献度（25%）②課題：グループワーク（25%）③課題：個人（25%）④ Final Presentation（25%）を総合的に判断して評価する。</p> <p>【重要】 英検準2級、TOEIC400点～の英語力があることが望ましいが、積極的に学ぼうという姿勢があれば英語力は問わない。授業は英語と日本語で行われる。The class will be conducted in both English and Japanese. Foreign students studying at OKIU are WELCOME!</p>
学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>英語VI（英検準1級）、英語VII（TOEIC）、を受講し英語力向上を目指すことや、他の外国語も積極的に履修することで異文化やグローバル社会の理解を深めて欲しい。また、スピーチコンテストや語学合宿、更には興味のある学生は留学や海外インターンシップにもチャレンジすることでこれからの時代に備えグローバルに活躍できる人材になって欲しいと考える。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際理解課題研究Ⅱ	通年	火2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 ヒョンジョン	3年	授業終了後に受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義は、東アジアでも最も日本の隣国で、相互理解の面でも欠かさない韓国に焦点を当てる。日韓は政治・歴史の面から様々な課題を抱えているものの、近年の「韓流」「K-pop」といったサブ・カルチャー的要素による交流面は一躍買っている現状がある。講義では、韓国の歴史や社会、言語、文化などに触れながら、日本・沖縄と比較・考察することで、日韓の真の相互理解について考えていく。</p>	<p>皆さんはニュースなどを通して、大衆文化面または人的交流面では友好に見える日韓関係が、政治・歴史的な面で一気に雰囲気冷めてしまう現状を感じていませんか。大衆文化的な面だけにとらわれない、または歴史的な面だけにもとらわれない、日韓の真の相互理解のために必要な姿勢と能力について皆で考えていきませんか。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 文化を客観的にみつめて語る力を持つと同時に、自文化を再認識することができる。 取り上げるテーマについて深く考察し、韓国語を用いて発表したりまとめたりすることができる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス「講義の流れ、評価方法など」	今学期の計画設定
	2	東アジアにおける日本と韓国「概要と歴史」	授業内容の振り返り
	3	韓国の社会1	グループ発表（1回目）準備
	4	韓国の社会2	グループ発表（1回目）準備
	5	韓国の社会3	グループ発表（1回目）準備
	6	グループ発表と討議	発表の振り返り
	7	韓国の文化1	グループ発表（2回目）準備
	8	韓国の文化2	グループ発表（2回目）準備
	9	韓国の文化3	グループ発表（2回目）準備
	10	グループ発表と討議	発表の振り返り
	11	日韓相互理解1	グループ発表（3回目）準備
	12	日韓相互理解2	グループ発表（3回目）準備
	13	日韓相互理解3	グループ発表（3回目）準備
	14	グループ発表と討議	発表の振り返り
	15	前期のまとめ	前期の振り返り
	16	後期の流れとテーマ設定に関する討議	テーマ設定のための文献調査
	17	研究調査の方法と論文作成について	テーマ設定のための文献調査
	18	テーマ設定と自己計画シート作成	自己評価
	19	文献探索と発表・討議1	文献のまとめ
	20	文献探索と発表・討議2	文献のまとめ
	21	計画状況の確認1	文献のまとめ
	22	テーマに沿った調査報告1	調査準備と実行
	23	テーマに沿った調査報告2	調査準備と実行
	24	テーマに沿った調査報告3	調査準備と実行
	25	計画状況の確認2	論文作成
	26	調査結果の分析とまとめ1	論文作成
	27	調査結果の分析とまとめ2	論文作成
	28	研究結果の発表1	最終発表の準備
	29	研究結果の発表2	最終発表の準備
30	研究結果の発表3	発表の振り返り	
31	後期のまとめ・自己評価	今学期の振り返り	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストの指定は無し。テーマに合わせて随時プリントを配布する。 ・次は参考文献として薦める。その他、必要に応じて講義のなかで紹介する。 北尾謙治 ほか (2005) 『広げる知の世界—大学での学びのレッスン—』 ひつじ書房 小此木政夫 ほか (2012) 『日韓新時代と東アジア国際政治』 慶應義塾大学出版会 前田真彦 (2015) 『韓国語上級表現ノート』 明石書店
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・韓国語による討議や発表などを前提とするため、韓国語IVまで履修済みまたはそれ同等の韓国語力を持つ人が受講対象となる。 ・前期はグループ発表を通して協同のなかで自分の役割を果たすこと、後期は自己計画シートを作成しながら自分のテーマに沿った研究を積極的に遂行していくことを重視する。
	<p>評価</p> <p>講義内での発言・態度等の参加度 (30%)、グループまたは個人発表 (40%)、課題・論文作成 (30%) を合わせて評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・韓国語関連の検定試験(上級レベル)や、韓国への留学試験等に挑戦する。 ・自分のテーマが卒業論文と関連を持つ場合は、より考察を深めていってほしい。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際理解課題研究Ⅱ	通年	火4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上江洲 律子	3年	沖国大ポータルGmailにて質問してください。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ヨーロッパ（主にフランス）を主題とする童話『星の王子さま』やアニメ映画『王と鳥』といった表象を通して、ヨーロッパの文化についての知識を得ることを目的とします。また、物語や映画が内包するヨーロッパ的なものを汲み取る力を身につけて、それらを受容する感受性や日本を中心とする視点だけに留まらない幅広い視点を獲得することを目指します。</p> <p>到達目標</p> <p>ヨーロッパを主題とする表象（小説、映画、芸術、建築、音楽、料理、ファッションなど）を取り上げて、そこに内包されているヨーロッパ的なものを汲み取り、日本との比較を通してそれに関する自分の考えをまとめて、その考えを自分の言葉で発表することができるようになることを目標とします。</p>	<p>まず、ヨーロッパに関するさまざまな表現に触れてみましょう。それが、新しい世界への窓となります。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	前期のガイダンス	課題の作成
	2	童話『星の王子さま』の分析と考察のガイダンス（1）	課題の作成
	3	童話『星の王子さま』の分析と考察のガイダンス（2）	課題の作成
	4	童話『星の王子さま』の分析と考察の準備（1）	課題の作成
	5	童話『星の王子さま』の分析と考察の準備（2）	課題の作成
	6	童話『星の王子さま』についての発表の準備（1）	課題の作成
	7	童話『星の王子さま』についての発表の準備（2）	課題の作成
	8	童話『星の王子さま』についての発表（1）	課題の作成
	9	童話『星の王子さま』についての発表（2）	課題の作成
	10	童話『星の王子さま』についての発表（3）	課題の作成
	11	童話『星の王子さま』についての発表（4）	課題の作成
	12	童話『星の王子さま』についての発表（5）	課題の作成
	13	童話『星の王子さま』についての発表（6）	課題の作成
	14	童話『星の王子さま』についての発表（7）	課題の作成
	15	童話『星の王子さま』についての発表（8）	課題の作成
	16	前期のまとめと後期の発表のガイダンス	課題の作成
	17	後期のガイダンス	課題の作成
	18	アニメ映画『王と鳥』の分析と考察のガイダンス（1）	課題の作成
	19	アニメ映画『王と鳥』の分析と考察のガイダンス（2）	課題の作成
	20	アニメ映画『王と鳥』の分析と考察のガイダンス（3）	課題の作成
	21	ヨーロッパについての発表の準備（1）	課題の作成
	22	ヨーロッパについての発表の準備（2）	課題の作成
	23	ヨーロッパについての発表（1）	課題の作成
	24	ヨーロッパについての発表（2）	課題の作成
	25	ヨーロッパについての発表（3）	課題の作成
	26	ヨーロッパについての発表（4）	課題の作成
	27	ヨーロッパについての発表（5）	課題の作成
	28	ヨーロッパについての発表（6）	課題の作成
	29	ヨーロッパについての発表（7）	課題の作成
30	ヨーロッパについての発表（8）	課題の作成	
31	後期のまとめ	復習	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>サン＝テグジュペリ『星の王子さま』の日本語訳本 ※『星の王子さま』については数多くの日本語訳本が出版されています。どの日本語訳本でも構いませんので、各自、入手して目を通しておいてください。 ※それ以外の資料については、授業内で必要に応じてプリントを配付します。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>フランスの小説家アンドレ・マルローは「われわれは比較を通してしか感じ取ることができない」と語っていますが、何かを理解する上で比較することは重要なことです。常に「比較する」ことを意識しながら作品に向き合ってください。</p>
	<p>評価</p> <p>主に授業での発表（80％）によって評価します。また、課題の提出（20％）も評価に加味します。 ※ただし、単位修得のためには授業の3分の2以上の出席を義務づけます。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>ヨーロッパ文化を主題とする科目として、ヨーロッパ研究Ⅰ（前期）とヨーロッパ研究Ⅱ（後期）があります。ヨーロッパについての知識を高めたい方はその科目を受講して下さい。また、ドイツ文学を主題とする文学Ⅰ、フランス文学を主題とする文学Ⅱという科目では、文学を通してヨーロッパの文化に触れることができます。</p>

※ポリシーとの関連性

太平洋諸島と沖縄の関係を学ぶことにより、太平洋諸島が抱えている問題に関心をもち、問題解決に向けて考えていく。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	太平洋諸島と移民Ⅰ	前期	金 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-石川 朋子	1年	原則、授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>明治以降、日本人はハワイ、北米、中南米、東南アジア等、世界各地に移民を送出していた。太平洋諸島においてもイギリス領フィジーやフランス領ニューカレドニア、オーストラリア領木曜島などに移民した。本講義では太平洋諸島と日本の関係を移民をとおして考える。</p>	<p>太平洋諸島と日本の関係を移民を通して、学ぶことによって、太平洋諸島について考えるきっかけになることを期待したい。</p>

到達目標	太平洋諸島における移民を学ぶことによって、太平洋諸島、沖縄を理解することになる。
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス、登録確認	シラバスを読む
	2	太平洋諸島の概要－ミクロネシア、メラネシア、ポリネシア－	配布資料、参考文献を精読する
	3	太平洋諸島の概要－南太平洋の人々の暮らし－	配布資料、参考文献を精読する
	4	太平洋諸島の地理と自然環境	配布資料、参考文献を精読する
	5	太平洋諸島の国と地域 1	配布資料、参考文献を精読する
	6	太平洋諸島の国と地域 2	配布資料、参考文献を精読する
	7	テスト	復習する
	8	太平洋諸島の歴史 1	配布資料、参考文献を精読する
	9	太平洋諸島の歴史 2	配布資料、参考文献を精読する
	10	テスト	復習する
	11	沖縄の移民	配布資料、参考文献を精読する
	12	ハワイと移民 1	配布資料、参考文献を精読する
	13	ハワイと移民 2	配布資料、参考文献を精読する
14	ニューカレドニアと移民 1	配布資料、参考文献を精読する	
15	ニューカレドニアと移民 2	配布資料、参考文献を精読する	
16	テストまたはレポート	復習する	
テキスト・参考文献・資料など	特になし。講義は、毎回配布するレジュメに沿って行う。参考文献等は講義のなかで適宜紹介する。ビデオ等の画像なども使用する。		
学びの手立て	講義内容に関連する参考文献等を探索し、積極的に知見を深めていく		
評価	講義でのリアクションペーパー等により講義理解状況を把握し、レポート、テスト等で総合的評価する。 リアクションペーパー40%、テスト・レポート60%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目として「太平洋諸島と移民Ⅱ」の履修を薦める。
-------	---

※ポリシーとの関連性

太平洋諸島と沖縄の関係を学びことにより、太平洋諸島が抱えている問題に関心をもち、問題解決に向けて積極的考えていく。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	太平洋諸島と移民Ⅱ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-石川 朋子	1年	講義終了後でメール等で受け付ける	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄から、1889（明治32）年にハワイ、1905（明治38）年にニューカレドニア等の太平洋諸島へ移民している。第一次世界大戦後、ミクロネシア（ナウル、キリバス、グアムを除く）は、国際連盟委任統治領として日本が「南洋群島」と称して統治していた。その頃を機に多くの沖縄人が移民した。本講義では、日本が統治した南洋群島の移民について考える。</p>	<p>かつて沖縄から多くの人びとが、「移民」としてミクロネシアへ渡り暮らしていた。当時の在留邦人の6割は沖縄出身者であった。本講義を通して、ミクロネシア地域、太平洋諸島について興味をもつことを期待したい。</p>
到達目標	「南洋移民」を学ぶことによって、太平洋諸島、日本、沖縄との関係を学ぶことができ、移民を通して太平洋諸島と沖縄のことを理解することになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	登録確認、講義ガイダンス	シラバスを読む
	2	登録確認、太平洋諸島の概要	配布資料、参考文献等を精読する
	3	太平洋諸島の国と地域 1	配布資料、参考文献を精読する
	4	太平洋諸島の国と地域 2	配布資料、参考文献を精読する
	5	テスト	復習する
	6	ミクロネシアの地理と自然環境	配布資料、参考文献を精読する
	7	ミクロネシアの歴史 1	復習する
	8	ミクロネシアの歴史 2	配布資料、参考文献を精読する
	9	ミクロネシアの歴史 3	配布資料、参考文献を精読する
	10	テスト	復習する
	11	南洋移民の歴史的背景	配布資料、参考文献を精読する
	12	南洋移民の初期移民	配布資料、参考文献を精読する
	13	南洋移民の展開	配布資料、参考文献を精読する
14	南洋移民と戦争	配布資料、参考文献を精読する	
15	南洋移民と戦後	配布資料、参考文献を精読する	
16	テストまたはレポート	復習する	
テキスト・参考文献・資料など	特になし。講義は、毎回配布するレジュメに沿って行く。参考文献等は講義のなかで適宜紹介する。ビデオ等の画像も使用する。		
学びの手立て	講義内容に関連する文献等を検索し、積極的に知見を深めていく		
評価	講義でのリアクションペーパー等により講義理解状況を把握する。リアクションペーパー40%、テスト・レポート60%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目として「太平洋諸島と移民Ⅰ」の履修を薦める。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	多民族論	前期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-稲村 務	1年	tinamura@grs.u-ryukyu.ac.jp 稲村務	

学びの準備	ねらい 「民族」「エスニシティ」「ナショナリズム」「多文化主義」などの用語について現在と過去の事例を挙げて明晰に考えたり論じたりすることができるようになること。	メッセージ 身近な問題から国際問題について考える、他民族社会をフィールドワークから考える人類学の授業です。
	到達目標 ①「民族」・「ナショナリズム」の歴史を理解する。 ②「民族」・「ナショナリズム」と関連した世界各地の状況を理解する。 ③「多文化主義」や「多文化共生」の潮流と現状を理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	関連するニュースを探す
	2	人類学のパラダイム転換と人類学、民族学、民俗学	学問分野について理解する
	3	「民族」とエスニシティ	基礎的な用語について理解する
	4	「民族」のフィールドワーク	フィールドワークと用語の理解
	5	帝国の人類学－戦前の日本の人類学・民俗学	人類学史の理解
	6	柳田国男を中心にみた民族学と民俗学	人類学史の理解
	7	戦後の文化人類学と民俗学	人類学史の理解
	8	アメリカ社会のエスニシティ論とアイデンティティ論	アメリカについて調べる
9	中国・台湾の「民族」論	中国・台湾について調べる	
10	華僑・華人のエスニシティ	華僑・華人について調べる	
11	沖縄奄美の「民族」論	沖縄奄美について調べる	
12	多民族論とグローバル社会	用語を理解する	
13	映像鑑賞	映像の中の事例から用語を体得する	
14	映像鑑賞	映像の中の事例から用語を体得する	
15	授業の総括	授業全体を総括し、復習する	
16	テスト		
	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。毎回の講義ではレジュメおよび資料を配布する。 ネットに公開している稲村の解説的な文章も参照すること。 参考書：綾部恒雄（監修）2000『世界民族辞典』弘文堂 松原正毅（編）2002『世界民族問題事典』明石書店		
	学びの手立て 民族、エスニシティ、ナショナリズムといったニュースや歴史に関心を持ち、調べて学ぶようになってください。 この授業でそうしたニュースや歴史がよく理解できるようになると思います。		
	評価 平常点：30点、期末試験：70点＝100点 授業参加姿勢を確認するため、レスポンス・ペーパー（質問／コメント／感想）の提出をもとめる。 また、学期末には講義内容に関する筆記試験あるいはレポートを課し、平常時の授業参加姿勢とともに総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 共通科目：アジア研究Ⅰ・Ⅱほかの地域研究科目、国際平和学Ⅰ・Ⅱ、文化人類学Ⅰ・Ⅱ（共通科目）など。 専門科目：各学科の地域研究および国際理解関連の諸科目
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	多民族論	後期	火 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	石垣 直	1年	石垣 直 (nishigaki@oki.u.ac.jp)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「民族」・「国民」や「ナショナリズム」は、グローバル化が進む現代においても、依然として強い影響力をもっている。本講義では、政治・経済的な視点のみならず、文化人類学的な観点から「民族」・「国民」・「ナショナリズム」を取り巻く歴史と現状を解き明かし、「多文化共生」の可能性を探究する。</p>	<p>「民族」・「ナショナリズム」そして「多文化共生」は、21世紀を生きる私たちにとって、避けて通れない問題・課題である。世界の諸事例を学びつつ、ぜひ、みなさんが生活している沖縄の過去／現在／未来についても考えてほしい。</p>
到達目標	<p>①「民族」・「国民」・「ナショナリズム」の歴史を理解する。 ②「民族」・「国民」・「ナショナリズム」と関連した世界各地の状況を理解する。 ③「多文化主義」や「多文化共生」の潮流と現状を理解する。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	関連するニュースを探す。
	2	「民族」・「国民」とは何か——本質主義と構築主義	民族をめぐる議論を理解する。
	3	映像鑑賞（1）	関連する映像を観賞する。
4	近代「国民国家」の成立（1）	近代と民族の関係を調べる。	
5	近代「国民国家」の成立（2）	近代と民族の関係を調べる。	
6	近代「国民国家」の成立（3）	近代と民族の関係を調べる。	
7	「民族」・「国民」と「ナショナリズム」論——理論的整理	民族をめぐる議論を調べる。	
8	世界各地の状況（1）——アフリカ	アフリカの状況を調べる。	
9	世界各地の状況（2）——中東	中東の状況を調べる。	
10	世界各地の状況（3）——アジア	アジアの状況を調べる。	
11	世界各地の状況（4）——ヨーロッパ	欧州の状況を調べる。	
12	映像観賞（2）	関連する映像を観賞する	
13	先住民族運動のグローバルな展開	先住民族運動について調べる。	
14	多文化主義の挑戦	各地の多文化主義政策を調べる。	
15	まとめ	全体の内容を復習する。	
16	テスト		
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト：特になし。（※毎回の講義ではレジュメおよび資料を配布する） 参考文献については毎回の講義の中で適宜紹介する。</p>		
学びの手立て	<p>日頃から、「民族」・「ナショナリズム」・「多文化共生」に関するニュースに関心をもつようにしましょう。 「民族」・「ナショナリズム」・「アイデンティティ」を個々地域の歴史のプロセスにおいて理解することを心掛けましょう。</p>		
評価	<p>平常点：30点、期末試験／課題：70点＝100点 授業参加姿勢を確認するため、レスポンス・ペーパー（質問／コメント／感想）の提出をもとめる。 また、学期末には講義内容に関する筆記試験あるいはレポートを課し、平常時の授業参加姿勢とともに総合的に評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>共通科目：アジア研究Ⅰ・Ⅱほかの地域研究科目、国際平和学Ⅰ・Ⅱ、文化人類学Ⅰ・Ⅱ（共通科目）など。専門科目：各学科の地域研究および国際理解関連の諸科目</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性 ヨーロッパの諸側面を学ぶことで自身の文化や社会に対する理解も深めてもらう。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ヨーロッパ研究 I	前期	火 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮里 厚子	1年	講義終了後に教室で受け付けます。またはメールください：ptt703@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この講義は、ヨーロッパそしてEUの成り立ちを概観しつつその文化的・社会的諸側面について学ぶことで、ヨーロッパの根幹をなす共通事項と多様性を理解してもらうことを目的としています。ヨーロッパについて理解を深めることで、自身の文化・社会についてより深く考えるきっかけにしてもらうこともこの講義のねらいです。	ヨーロッパに興味を持っていても、その歴史的・文化的背景やヨーロッパの人々の生活はよく知らないという人は多いかもしれません。この講義では、適宜その時々話題になっているニュース等も取り上げながら、「ヨーロッパ」という地域圏に対して様々なテーマからアプローチします。担当者の専門分野の関係上、ヨーロッパの中でも特にフランスについて言及することが多くなる予定です。
到達目標	①ヨーロッパの根底を流れる文化の特徴を説明することができる。 ②ヨーロッパの文化・社会の多様性を理解することができる。 ③EUの成り立ちとその課題を理解し、EUについて自分なりの見解を述べるができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイドダンス・ヨーロッパとは？	講義内容を復習する・理解を深める
2	ヨーロッパの成り立ち	講義内容を復習する・理解を深める	
3	ヨーロッパの宗教 (1)	講義内容を復習する・理解を深める	
4	ヨーロッパの宗教 (2)	講義内容を復習する・理解を深める	
5	ヨーロッパの宗教 (3)	講義内容を復習する・理解を深める	
6	美術 (1)	講義内容を復習する・理解を深める	
7	美術 (2)	講義内容を復習する・理解を深める	
8	美術 (3)	講義内容を復習する・理解を深める	
9	美術 (4)	講義内容を復習する・理解を深める	
10	ヨーロッパの人々の生活：家族	講義内容を復習する・理解を深める	
11	ヨーロッパの人々の生活：教育	講義内容を復習する・理解を深める	
12	EUの成り立ち	新聞・ニュースでEU関連記事を読む	
13	Eヨーロッパの言語	新聞・ニュースでEU関連記事を読む	
14	EUの教育政策・言語政策	新聞・ニュースでEU関連記事を読む	
15	EUの抱える問題	新聞・ニュースでEU関連記事を読む	
16	期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など プリントを配付します		
	学びの手立て		
	・「ヨーロッパ」の窓口は広いので、自分の専門分野、本、テレビ番組など、授業外でも「ヨーロッパ」の情報をキャッチするアンテナを張っておくと思います。		
	評価		
	期末テスト：50% 平常点（クイズ、コメントシートの提出）：50%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：ヨーロッパ言語関連の科目等
-------	-----------------------------------

※ポリシーとの関連性 ヨーロッパの諸側面を学ぶことで自身の文化や社会に対する理解を深めてもらう。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ヨーロッパ研究Ⅱ	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-西 圭介	1年	授業に関する質問はknishi@grs.u-ryukyu.ac.jpに送ってください。	

学びの準備	ねらい 16世紀からの様々な商品の生産/流通の過程を講義することによって、現在の世界経済のグローバル化の起源について理解してもらう。	メッセージ 高い授業料を払っているの、頑張って勉強してください。
	到達目標 現在の世界経済のグローバル化の一端について理解を深める。	

学びの準備	到達目標 現在の世界経済のグローバル化の一端について理解を深める。
-------	--------------------------------------

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特例講義) 銀が切り拓いた時代 15世紀	復習
	2	(特例講義) 銀が切り拓いた時代 16世紀	復習
	3	(特例講義) 戦争資本主義	復習
	4	(特例講義) 戦争資本主義	復習
	5	(特例講義) 綿工業のグローバルネットワーク	復習
	6	(特例講義) 綿工業のグローバルネットワーク	復習
	7	(未定) 綿工業のグローバルネットワーク	復習
	8	(未定) 大量生産システムの成立	復習
	9	(未定) 大量生産システムの成立	復習
	10	(未定) 大量生産システムの成立	復習
	11	(未定) 大量生産システムの成立	復習
	12	(未定) ミシンと近代日本	復習
	13	(未定) ミシンと近代日本	復習
	14	(未定) ミシンと近代日本	復習
	15	(未定) まとめ	復習
16	テスト (期末レポート)	復習	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 沖縄国際大学のwebclass (Moodle) に授業資料を授業時間にアップします。
-------	---

学びの実践	学びの手立て 主体的に勉強してください。
-------	-------------------------

学びの実践	評価 講義中に行う小テスト (4-5回) で50%の評価を行う。残りの50%は期末レポートで評価する。期末レポートについて書式を授業中に指定する。その書式に従って、約5千字の学術的な図書に関するブックレポートを提出してもらう。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 ヨーロッパ言語関連の科目など。
-------	--------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ラテンアメリカ研究	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-稲村 幸子	1年	大学のアドレスのメールをお願いします。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	ラテンアメリカと呼ばれる広大な地域について、主に地理的・歴史的視点からその共通性と多様性を理解し、現代ラテンアメリカ社会の諸問題に関心を持つことができるように授業を進めていく予定です。現代のラテンアメリカ社会に起こる諸問題について関心を持ち理解を深めることは、世界情勢を正しく知るうえで必要なことです。	現在の社会は過去の出来事の積み重ねと捉えると、ラテンアメリカ社会が直面している問題を正しく理解し、さらに未来について考察するには、地域に関する地理的、歴史的知識は不可欠です。
到達目標	ラテンアメリカ社会でこれまでに起こったさまざまな出来事、そして現在進行中の事象について、地理的・歴史的知識をもとに基本となる用語を適切に用いながら、簡潔で正確な説明ができるようになることを目標とします。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション ラテンアメリカとは	授業での到達目標について確認
	2	ラテンアメリカについて	ラテンアメリカに関する知識を確認
	3	ブラジルの地理と歴史 その1	ブラジルに関する発展学習
	4	ブラジルの地理と歴史 その2	ブラジルに関する発展学習
	5	南アメリカの地理 (ペルー)	新大陸原産作物に関する発展学習
	6	中央アメリカの地理 (パナマ)	パナマに関する発展学習
	7	中央アメリカの地理 (コスタリカ)	コスタリカに関する発展学習
8	先スペイン期のアメリカ大陸 (1) (人類の移動)	人類の移動について発展学習	
9	先スペイン期のアメリカ大陸 (2) (メソアメリカ文明)	メソアメリカ文明について発展学習	
10	先スペイン期のアメリカ大陸 (3) (アンデス文明)	アンデス文明について発展学習	
11	「新大陸」発見、征服、植民地時代	新大陸の征服についての発展学習	
12	ラテンアメリカ諸国の独立 (メキシコ)	メキシコに関する発展学習	
13	ラテンアメリカ諸国の独立 (キューバ)	キューバに関する発展学習	
14	ラテンアメリカ諸国の独立 (アルゼンチン)	アルゼンチンに関する発展学習	
15	現代ラテンアメリカの諸問題	これまでのまとめとレポート準備	
16	期末レポート	今後の課題を見つける	
実践	テキスト・参考文献・資料など	<p>毎回の授業用資料を配布し、テキストは使用しません。 授業の中で内容ごとに文献を紹介し、配布資料にも記載するので、それらを参照してください。 参考文献として『物語ラテン・アメリカの歴史—未来の大陸』増田 義郎 中公新書 1998年 を挙げます。</p>	
	学びの手立て	<p>授業用資料や映像資料を用いた形式で行います。 毎回、授業終了時までに講義内容のまとめを提出します。翌週の授業でその解答例を提示します。 学びを深めるための時間外学習については毎回の授業終了時にテーマを提示します。じっくり一週間かけて調べたことをレポートしてください。 授業の中で紹介された文献や参考となる資料を活用して、時間外にも充実した学習に努めてください。 講義内容のまとめも時間外学習のレポートとともに設定された時間内に提出してください。</p>	
	評価	<p>毎回の授業のまとめ 3点×第3回から第14回までの12回分=36点 授業外学習のレポート 2点×第3回から第14回までの12回分=24点 最終レポート 40点 合計100点で評価します。</p>	

学びの継続	次のステージ・関連科目
	授業で得た知識や社会問題を考察する力を、地域社会の問題解決に活かせるように努める。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ラテンアメリカ研究	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-稲村 幸子	1年	メールで受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	ラテンアメリカと呼ばれる広大な地域について、主に地理的・歴史的視点からその共通性と多様性を理解し、現代ラテンアメリカ社会の諸問題に関心を持つことができるように授業を進めていく予定です。現代のラテンアメリカ社会に起こる諸問題について関心を持ち理解を深めることは、世界情勢を正しく知るうえで必要なことです。	現在の社会は過去の出来事の積み重ねと捉えると、ラテンアメリカ社会が直面している問題を正しく理解し、さらに未来について考察するには、地域に関する地理的、歴史的知識は不可欠です。
到達目標	ラテンアメリカでこれまでに起こったさまざまな出来事、そして現在進行中の事象について、地理的・歴史的知識をもとに基本となる用語を適切に用いながら、簡潔で正確な説明ができるようになることを目標とします。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション ラテンアメリカとは	授業での到達目標について確認
	2	ラテンアメリカについて	ラテンアメリカに関する知識を確認
	3	ブラジルの地理と歴史 その1	ブラジルに関する発展学習
	4	ブラジルの地理と歴史 その2	ブラジルに関する発展学習
	5	南アメリカの地理 (ペルー)	新大陸原産作物に関する発展学習
	6	中央アメリカの地理 (パナマ)	パナマに関する発展学習
	7	中央アメリカの地理 (コスタリカ)	コスタリカについての発展学習
	8	先スペイン期のアメリカ大陸 (1) (人類の移動)	人類の移動について発展学習
	9	先スペイン期のアメリカ大陸 (2) (メソアメリカ文明)	メソアメリカ文明について発展学習
	10	先スペイン期のアメリカ大陸 (3) (アンデス文明)	アンデス文明について発展学習
	11	「新大陸」発見、征服、植民地時代	新大陸の征服についての発展学習
	12	ラテンアメリカ諸国の独立 (メキシコ)	メキシコに関する発展学習
	13	ラテンアメリカ諸国の独立 (キューバ)	キューバに関する発展学習
14	ラテンアメリカ諸国の独立 (アルゼンチン)	アルゼンチンに関する発展学習	
15	現代ラテンアメリカの諸問題	これまでのまとめとレポート準備	
16	最終レポート	今後の課題を見つける	
テキスト・参考文献・資料など	<p>毎回の授業用資料を配布し、教科書は使用しません。 授業の中で内容ごとに必要な文献を紹介し、配布資料にも記載するので、それらを参照してください。 参考文献として『物語ラテン・アメリカの歴史—未来の大陸』増田 義郎 中公新書 1998年 を挙げます。</p>		
学びの手立て	<p>授業用資料や映像資料を用いた形式で行います。 毎回、授業終了時までに講義内容のまとめを提出します。翌週の授業でその解答例を提示します。 学びを深めるための時間外学習については毎回の授業終了時にテーマを提示します。じっくり一週間かけて調べたことをレポートしてください。 授業の中で紹介された文献や参考となる資料を活用して、時間外にも充実した学習に努めてください。 講義内容のまとめも時間外学習のレポートとともに設定された時間内に提出してください。</p>		
評価	<p>毎回の授業のまとめ 3点×第3回から第14回までの12回分=36点 授業外学習のレポート 2点×第3回から第14回までの12回分=24点 最終レポート 40点 合計100点で評価します。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>授業で得た知識や社会問題を考察する力を、地域社会の問題解決に活かせるように努める。</p>
-------	---